

授業科目名	兵庫の教訓を踏まえた防災	担当教員	青田 良介
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3 年 第 2 クォーター		
講義内容	<p>日本は世界でも有数の災害大国である。そのなかで兵庫県は 1995 年の阪神・淡路大震災をはじめとする幾多の災害から、数多くの災害教訓を蓄積してきた。そこから、ボランティアや協働社会といった防災に留まらない、社会全体に関係する現象や制度等が生まれた。防災は社会の営みと密接に関わっていると言える。</p> <p>本講義では、但馬地方も含めた兵庫の主な災害を中心に理解することを通して、直後の災害対応はもとより、その後の復旧・復興、さらには、将来の災害への備えを体系的に学修する。災害に強い社会を作る上で、将来の中心的役割を担う世代が取り組むべき事項や心構えについても解説する。座学だけでなく、まち歩き、ワークショップ、ディスカッションの機会も取り入れることで、我が事として防災を考える機会を提供する。</p>		
到達目標	<p>学生が災害に強い社会をつくる上で必要な知識等を学ぶことで、災害時はもちろんのこと、普段から主体的に防災を考え、積極的に行動する人材になるための素養を身につけることができる。</p>		
授業計画	<p>1. 災害大国日本と防災の基本的な考え方</p> <p>2. 阪神・淡路大震災からの教訓</p> <p>3. 防災ワークショップ（避難所運営ゲーム）</p> <p>4. 東日本大震災からの教訓</p> <p>5. 能登半島地震被災地の再建を考える</p> <p>6. 防災教育と人材育成（クロスロードゲーム）</p> <p>7. 平成 16 年台風 23 号による豊岡水害からの復旧・復興</p> <p>8. 災害時の行政トップの決断</p> <p>9. 将来の巨大災害に備える</p> <p>10. 北丹地震と災害に強いまちづくり（防災まち歩き）</p> <p>11. 北丹地震と災害に強いまちづくり（グループディスカッション）</p> <p>12. 講義のまとめ</p>		
事前・事後学習	<p>・授業で学修したことに関するレポートを作成し、提出すること。</p>		
テキスト	<p>・パワーポイントを中心に関連する資料を適宜配布する。</p>		
参考文献	<p>・関心のある学生は、兵庫県が編集した「伝える 1.17 は忘れない―阪神・淡路大震災 20 年の教訓―」を読むことを勧める。</p>		
成績評価の基準	<p>・授業毎のレポート（40%）、ディスカッション等での積極性（20%）、最終レポート（40%）により評価する。</p>		

履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	履修者が定員を超過した場合、累積 GPA により選考を行う。